(11)(研究機能強化のための疫学・衛生科学研修)
フォローアップ調査回答合計集計表

Q1. 本研修は役にたっていますか。

回　　答	派遣元	研修生
1 たいへん役に立っている	3(50.0%)	4(66.7%)
2 役に立っている	3(50.0%)	1(16.7%)
3 どちらとも言えない	0(0.0%)	1(16.7%)
4 役にたっていない	0(0.0%)	0(0.0%)
5 全く役にたっていない	0(0.0%)	0(0.0%)

SQ1－1 (Q1で1, 2を選んだ方へ)どのような点で役に立っていると感じますか。(自由記載)

調査研究を進める上での、計画書・報告書に関して。

実験研究に対する基本的な姿勢が学習できたことによって、自発的かつ積極的に取り組むと共に他の職員の指導も行えるようになったと思われる点。

担当教官の指導により技術の向上が図れると共に、最新の情報を習得することができた。

参加者の研究意欲が高まり、他の職員へも良い刺激となっている。人脈が広がった。

本コースで得られた知識を活用して調査研究で成果が得られた。学会発表を行い、投稿中である。

①調査研究を進める上で、計画書・報告書作成の基本が理解できたこと②研修終了後も講師の方々と連絡を取り、専門的な助言をいただけるころ。

研究計画を作成する手法を系統的に学習することにより、研究のみではなく、様々な課題に対する能力が向上した。

研究計画やまとめ方を自信を持って後輩に指導できるようになった。

疫学的研究面で大変参考になりました。

研究計画立案時にその研究の公衆衛生的な視点を考えることにより、研究の位置づけを明確にすることができたと考えています。又結果の解析についてもより実践的な解析手法を学べたと感じています。

SQ1－2(Q1で4を選んだ方へ)役に立っていない理由

SQ1－3(Q1で5を選んだ方へ)全く役にたっていない理由

Q－2. 今後も本研修に職員を派遣したいと思いますか。

回　　答	派遣元
1 ぜひ派遣したい	3(50.0%)
2 派遣したい	3(50.0%)
3 どちらとも言えない	0(0.0%)
4 派遣したくない	0(0.0%)
5 絶対派遣したくない	0(0.0%)

SQ2－1(Q2で4を選んだ方へ)派遣したくない理由

SQ2－2(Q2で5を選んだ方へ)絶対派遣したくない理由

Q3. 科学院の研修全般へのご意見をお聞かせ下さい。(自由記載)

受け入れの時期や期間等を柔軟に設定して貰えると参加しやすい。フォローアップ研修的な対応があると研修成果が継続的に活かせるのでは？

大変良い研修であるが、当県は財政的にも人的にも大変厳しい状況にあるため、職員を派遣することが容易ではない。
分析技術に関する研修(実習)を実施していただきたい。

Q－2. 本研修を他の人に勧めたいと思いますか。

回　　答	研修生
1 強く勧めたい	2(33.3%)
2 勧めたい	4(66.7%)
3 どちらとも言えない	0(0.0%)
4 勧めたくない	0(0.0%)
5 絶対勧めたくない	0(0.0%)

SQ2－1(Q2で4を選んだ方へ)勧めたくない理由

SQ2－2(Q2で5を選んだ方へ)絶対勧めたくない理由

Q3. 科学院の研修全般へのご意見をお聞かせ下さい。(自由記載)

①同じ分野での研修生が2名以上いれば、研修期間中に相談等ができ、有益であると思う②施設環境も良く、研修に集中することができたが、図書館に微生物関係の図書が少ないように感じた。

研究計画書の立案に関する研修については次年度には反映できるようにプログラムを検討して欲しいです。また計画書の調査内容のノウハウについてもきめ細かい指導を受けたかったと感じました。

研修主任の総括的コメント

受講者が少ないため、来年度は中止になったプログラムであるが、受講者および派遣元からの評価は良かった。受講者が少なくとも、現在の様式での継続を求める意見があったほか、次年度に向けた研究計画の立案、実験手技の講習などよりきめ細かい指導を希望する意見があった。このプログラムは、受講者だけでなくチューター役の科学院研究者にとっても、スキルアップおよび共同研究の機会を増加させる効果があり、可能であれば今後とも継続を考えて欲しい。 H20年度は、国立病院機構や大学からの受講生があった。対象者の枠を拡大すれば、このプログラムは継続可能かもしれない。

個別質問

(研究機能強化のための疫学・衛生科学研修)フォローアップ調査

(I)受講したご本名に対するアンケート

質問1.　本コースを受講した結果、受講時に計画していた研究計画書をブラッシュアップし、纏めることができましたか？

(a) はい	5(100.0%)
(b) いいえ	0(0.0%)
(c) どちらともいえない	0(0.0%)

質問2.　研究計画書は、所内の研究費あるいは外部の競争的研究資金を獲得する上で、役立ちましたか？

(a) はい	3(60.0%)
(b) いいえ	2(40.0%)
(c) どちらともいえない	0(0.0%)

質問3. 本コースを受講した結果、ご自身の研究計画を遂行するための基本的な検査技法や調査法を身につけ、ご自身で行えるようになりましたか？

(a) はい	5(100.0%)
(b) いいえ	0(0.0%)
(c) どちらともいえない	0(0.0%)

質問4. 本コースを受講した結果、ご自身の調査結果を適切な解析ソフト等を使ってご自身で解析できるようになりましたか？

(a) はい	4(80.0%)
(b) いいえ	0(0.0%)
(c) どちらともいえない	1(20.0%)

質問5. 本コースで完成した研究計画書に基づき実施した研究成果を、発表しましたか？

(a) はい	3(60.0%)
(b) いいえ	0(0.0%)
(c) 準備中	2(40.0%)

(a)とお答えの方は、次の質問に答えてください

質問5-1　発表方法は、何ですか(複数回答可)

(イ)欧文論文(査読有り)	1(33.3%)
(ロ)レビュー・プロシーディングなどの欧文発表(査読なし)	0(0.0%)
(ハ)邦文論文(査読有り)	1(33.3%)
(ニ)レビュー・プロシーディングなどの邦文発表(査読なし)	0(0.0%)
(ホ)邦文報告書	1(33.3%)
(ヘ)英語学会発表	0(0.0%)
(ト)日本語学会発表	2(66.7%)

(c)とお答えの方は、次の質問に答えてください

質問5-1 発表方法は、何ですか(複数回答可)

(イ)欧文論文(査読有り)	1(50.0%)
(ロ)レビュー・プロシーディングなどの欧文発表(査読なし)	0(0.0%)
(ハ)邦文論文(査読有り)	0(0.0%)
(ニ)レビュー・プロシーディングなどの邦文発表(査読なし)	0(0.0%)
(ホ)邦文報告書	0(0.0%)
(ヘ)英語学会発表	0(0.0%)
(ト)日本語学会発表	2(100.0%)

質問6. 本コースを受けたご自身の研究計画以外の面での効果に関して質問します。

質問6-1 職場で計画されている研究計画等の立案や解析の場に置かれた場合、貴方の態度は変わりましたか?

(a) はい 積極的に立案や解析の中心立つようになった	1(20.0%)
(b) はい 立案や解析において助言や支援をするようになった	2(40.0%)
(c) いいえ 以前から立案・解析を主体的に行っていた	1(20.0%)
(d) いいえ 以前から助言や支援を行っていた	2(40.0%)
(e) いいえ 他名の研究立案等に係わらないようにしている	0(0.0%)
(f) どちらともいえない (そのような機会に巡り会えていない)	0(0.0%)

質問6-2 職場の業務において、本コースを受けた間接的効果は有りましたか?

(a) はい (調査の品質管理、調査の優先順位に関する考え方、倫理的配慮などの面で)	5(100.0%)
(b) いいえ	0(0.0%)
(c) どちらともいえない	0(0.0%)

質問6-3 本コースを受講して、ご自身のキャリア・アップに役立ちましたか?

(a) はい	1(20.0%)
(b) いいえ	1(20.0%)
(c) どちらともいえない	3(60.0%)

(a) とお答えの方は、次の質問にもお答え下さい

質問6-4 どの様な面でキャリア・アップに繋がりました? (複数回答可)

(イ)特別昇給	1(100.0%)
(ロ)役職	0(0.0%)
(ハ)転職	0(0.0%)

(II) 派遣した職場の上司の方にお伺いします

質問1. 貴方の職場の名数を教えてください。

事務職

0名・2名・6名・11名

衛生科学調査担当(感染症、薬事、食品、環境衛生等)

8名・13名・29名・76名

保健福祉担当

0名・0名・0名・0名

質問2. 貴方の職場には、疫学調査や衛生科学調査を主体的に立案し、調査結果の解析まで行える能力のある部下が何人くらいいますか？

(a) 0人	0(0.0%)
(b) 1～2人	2(40.0%)
(c) 3～5人	1(20.0%)
(d) 5人以上	1(20.0%)

質問3. 「研究機能強化のための疫学・衛生科学コース」は、研究計画を自ら立案し、それを実行できる中堅職員を育てることを目的に開設しました。科学院で前期5日、後期5日のスクーリングを行い、後の期間および年度終了後はインターネットでチューターが遠隔支援します。このようなコースに自分の部下を派遣したいと思いますか？

(a) はい 予算が許すなら派遣したい	4(80.0%)
(b) はい 具体的な研究計画案ができたなら、派遣したい	1(20.0%)
(c) いいえ	0(0.0%)
(d) どちらともいえない	0(0.0%)

(a)あるいは(b)で「はい」とお答えいただいた方に、質問します

質問3-1 どの程度の頻度で派遣ができると思いますか？

(イ)毎年1名	0(0.0%)
(ロ)2～3年毎に1名	3(60.0%)
(ハ)4～5年毎に1名	0(0.0%)
(ニ)判らない	2(40.0%)

「(c) いいえ」とお答えいただいた方に、質問します

質問3-2 「いいえ」とお答えした理由をお聞かせ下さい

(イ)自前で教育指導できるから	
(ロ)ルーチン業務が主体のため、研究計画書を立案する能力や仕事の結果を解析し、発表する能力は不必要であるから	
(ハ)予算や人的な余裕がないから	
(ニ)その他 (自由に記載してください)	

質問4　本コースへの受講者が少なかった理由は、なんだと思われますか？(複数回答可)

(a) 宣伝が不十分で、コースの存在や意義が衛研や保健所に伝わっていなかった	4(80.0%)
(b) 財政的に逼迫しており、衛研や保健所に派遣する余裕がないから	3(60.0%)
(c) 敷居が高い(「研究計画書案を立案してから受講」)	2(40.0%)
(d) 科学院に派遣しなくとも、自前ないし大学等との連携で教育は可能であるから	0(0.0%)
(e) そもそも、衛研や保健所職員に研究計画立案能力や解析・発表能力は不要であるから	0(0.0%)

質問5　本コースは、平成21年度は、閉講予定です。衛研や保健所の疫学研究の機能強化のために、科学院にどの様なコースの設定を望みますか？

(a) 「研究機能強化のための疫学・衛生科学コース」のようなコースは不要である	0(0.0%)
(b) 研究課程や専門課程および他の疫学や統計の短期コースで十分である	1(20.0%)
(c)「研究機能強化のための疫学・衛生科学コース」のコンセプトで、条件を緩和したコースを望む	1(20.0%)
(d)参加者が少なくとも、「研究機能強化のための疫学・衛生科学コース」のコンセプトで継続すべきである	3(60.0%)
(e) その他、ご提案が有れば記載してください	0(0.0%)

(c)自由記載

「疫学」と「衛生科学」を分離し、「疫学」は科学院中心のカリキュラムで行い、「衛生科学」は他機関(大学・研究機関など)での研修のコーディネートを行ってはどうか？

(e)自由記載

研修主任の評価、分析、コメント

目標としていた「研究計画を自ら立案し、それを実行できる中堅職員を育てること」は、達成できたと思われる。グラント獲得、欧文論文、和文論文発表、学会発表、キャリアアップに繋がったといった直接的な成果の他、職場で研究計画作りなどの場面で積極性が増したといった間接的成果も見受けられる。コースの需要に関する質問に対しては、半分の職場で「2～3年に一度派遣したい」との回答だが、もともと派遣してきた職場だけのアンケートなので、一般化はできない。しかし、職場に「研究計画を自ら立案し、それを実行できる中堅職員」がまだまだ少ないこともアンケートから伺われる。ただし、「財政的余裕があれば派遣したい」という回答と共に、参加者が少なかった事に関して「財政的に逼迫している」が半数を超える職場から回答があった点は、留意する必要がある。今後、コースの宣伝をもっとしっかりとやると共に、国立病院や大学からも参加者を募るようにすれば、本コースのコンセプトを維持したままの再開も可能ではないだろうか。